

# 仙台育英学園 同窓会々報

発行所 仙台育英学園同窓会  
〒983-0045 仙台市宮城野区  
宮城野二丁目4-1  
TEL 022-256-4141 園務  
TEL 022-256-4141 英事  
編集人 仙台育英会  
印刷所 仙台印刷  
発行人 仙台印刷  
※トーヨープリントセールス  
TEL 022-225-8771



## 母校創立百周年の 記念事業の推進を

### 仙台育英学園同窓会 会長 小坂 信雄



いよいよ本格的な夏の到来に、同窓諸兄弟各位にはご健健で活躍のことと誠に同慶に堪えませんと、母校の発展と

相俟って、会員各位の温かい母校愛に支えられ、順調な運営を続けておられることは感謝に堪えません。母校、仙台育英学園も昨年度は念願の秀光中学校の復活開校が実現し、いよいよ中学、高校六年の一貫教育が実現し、母校創立百周年にむかって幸先よいスタートをきったことは創立百周年に一層の光彩を添え、この成果の多大であること

を皆様方と共に今から期待いたすものであります。また母校では、加藤学園長先生、加藤校長先生を中心に教育環境の整備を進めて来られました。教育施設は中学校開校で全体整えられており、昨年度は体育施設の充実にも努力され、他校には見られないすばらしい内容の充実した施設が完成いたしました。総面積三万余坪の校地

## 学園体制の充実と 社会への貢献の努力を

### 仙台育英学園秀光中学校長 仙台育英学園高等学校長 加藤 雄彦



本学園は今年、学園創立九十二年目の道歩んでいきます。一昨年の創立九十周年の年からは、来

たるべき二十一世紀に訪れる創立百周年に向けての記念事業を、すでにいくつかスタートさせています。そのひとつは、同窓会の皆様も承知の通り、本学園にとって四十年ぶりの中学校復活である仙台育英学園秀光中学校の開校です。昨年(平成八年)春に、多賀城校舎が

ローリー・ホルルの入学式会場であらたに秀光中学校開校宣言がなされて、すでに一年半。在籍する生徒は一回生、二回生で百二十名を超え、多賀城校舎サウスウイングの一角にある教室はもう、多賀城のキャンパスといばい、に若々しい中学生の音が響きわたる日々です。秀光中学校は、六年間

の中高一貫教育により、難関大学進学を前提とした学力の養成、洗練された国際感覚あふれる人材の育成等を教育の柱として掲げ、少人数精鋭による英才教育を実践してまいりますが、その成果はすでに現れ始めています。ひととほは、秀光中学校の生徒のみならず仙台育英学園の生徒全員で取り組んでいる「英検」(実用英語検定)。秀光中学校の生徒の中で二名、三級取得者三名、四級八名が誕生しています。現在の教育の成果が、大学進学の実績として出るには、まだ四年の年月を要します

が、現場のスタッフは、生徒たちの未来の栄光に向けての確かな手応えを感じながら、日々の指導に携わっているように、このような中学生たちの頑張りぶりに刺激されたのでしようか。今年春の本卒業生の大学進学実績を残しています。大学合格者の総数は千三百二十五名のほりまが、合格者の数は、平成が始まった元年は二百七十九名、それが、昨年(平成八年)には、初の四桁台(千二百二十名)に突入り、今年はその百名以上さらに上回る結果となりました。

合格大学についても、東京大学合格者が五年連続で誕生するに、加えて初の京都大学への合格者も誕生。さらに一橋大学一名、東京外国語大学五名、慶應義塾大学十名、早稲田大学十五名と、よりいっそうの充実した結果となりました。また、就職希望者についても、一〇〇%の就職率を今年も達成することができました。

創立百周年に向けてのもうひとつの記念事業が、昨年からスタートしています。多賀城校舎の北側に誕生しつつある大規模な総合スポーツ施設の建設がそれです。

本格的な工事は昨年から始められ、ナイター照明、散水施設完備のサッカー場、ソフトテニス場、弓道場、トレーニングルーム、そしてノースグロリーホールがすでに完成。施設の総称を「多賀城育英グラウンド」として、運動部を中心とした生徒たちによる使用が開始されています。

また、七月十九日から「夢にメッセをよこす」を会場として開催される「国際ゆめ交流博覧会」にも出席し、本学園の教育理念のひとつである国際理解教育をメインテーマとしたブース展開が行

われています。このように、新しい教育体制の整備や施設の建設とともに、博覧会への出展や数年前から取り組んでいるボランティア活動、そして海外姉妹校との国際交流等を中心とした外部に向けての活動を通して、本学園は地域社会、そして世界の発展と調和に貢献していきたいと考えています。

最後に、いつも本会運営に多大のお力添えをいただき、ありがとうございます。先生、学校長先生をはじめ、学園関係の皆様方に感謝の意を表し、会員、及びご家族のご健康と繁栄を祈念申し上げ挨拶といたします。

最後に、いつも本会運営に多大のお力添えをいただき、ありがとうございます。先生、学校長先生をはじめ、学園関係の皆様方に感謝の意を表し、会員、及びご家族のご健康と繁栄を祈念申し上げ挨拶といたします。

最後に、いつも本会運営に多大のお力添えをいただき、ありがとうございます。先生、学校長先生をはじめ、学園関係の皆様方に感謝の意を表し、会員、及びご家族のご健康と繁栄を祈念申し上げ挨拶といたします。

最後に、いつも本会運営に多大のお力添えをいただき、ありがとうございます。先生、学校長先生をはじめ、学園関係の皆様方に感謝の意を表し、会員、及びご家族のご健康と繁栄を祈念申し上げ挨拶といたします。

最後に、いつも本会運営に多大のお力添えをいただき、ありがとうございます。先生、学校長先生をはじめ、学園関係の皆様方に感謝の意を表し、会員、及びご家族のご健康と繁栄を祈念申し上げ挨拶といたします。

最後に、いつも本会運営に多大のお力添えをいただき、ありがとうございます。先生、学校長先生をはじめ、学園関係の皆様方に感謝の意を表し、会員、及びご家族のご健康と繁栄を祈念申し上げ挨拶といたします。

最後に、いつも本会運営に多大のお力添えをいただき、ありがとうございます。先生、学校長先生をはじめ、学園関係の皆様方に感謝の意を表し、会員、及びご家族のご健康と繁栄を祈念申し上げ挨拶といたします。

本会では、総会終了後の懇親会になるべく多数の会員に出席いただき、親睦の輪を拡げ、会の発展を図るため、役員を通じて参加のおすすしめをい

本会では、総会終了後の懇親会になるべく多数の会員に出席いただき、親睦の輪を拡げ、会の発展を図るため、役員を通じて参加のおすすしめをい

本会では、総会終了後の懇親会になるべく多数の会員に出席いただき、親睦の輪を拡げ、会の発展を図るため、役員を通じて参加のおすすしめをい

本会では、総会終了後の懇親会になるべく多数の会員に出席いただき、親睦の輪を拡げ、会の発展を図るため、役員を通じて参加のおすすしめをい

本会では、総会終了後の懇親会になるべく多数の会員に出席いただき、親睦の輪を拡げ、会の発展を図るため、役員を通じて参加のおすすしめをい

本会では、総会終了後の懇親会になるべく多数の会員に出席いただき、親睦の輪を拡げ、会の発展を図るため、役員を通じて参加のおすすしめをい

本会では、総会終了後の懇親会になるべく多数の会員に出席いただき、親睦の輪を拡げ、会の発展を図るため、役員を通じて参加のおすすしめをい

本会では、総会終了後の懇親会になるべく多数の会員に出席いただき、親睦の輪を拡げ、会の発展を図るため、役員を通じて参加のおすすしめをい

本会では、総会終了後の懇親会になるべく多数の会員に出席いただき、親睦の輪を拡げ、会の発展を図るため、役員を通じて参加のおすすしめをい

本会では、総会終了後の懇親会になるべく多数の会員に出席いただき、親睦の輪を拡げ、会の発展を図るため、役員を通じて参加のおすすしめをい

本会では、総会終了後の懇親会になるべく多数の会員に出席いただき、親睦の輪を拡げ、会の発展を図るため、役員を通じて参加のおすすしめをい

本会では、総会終了後の懇親会になるべく多数の会員に出席いただき、親睦の輪を拡げ、会の発展を図るため、役員を通じて参加のおすすしめをい

本会では、総会終了後の懇親会になるべく多数の会員に出席いただき、親睦の輪を拡げ、会の発展を図るため、役員を通じて参加のおすすしめをい

本会では、総会終了後の懇親会になるべく多数の会員に出席いただき、親睦の輪を拡げ、会の発展を図るため、役員を通じて参加のおすすしめをい

## 歴史の重み

同窓会副会長  
玄遠書道教室主  
大江田 光雄 (昭10卒)



一九〇五年(明治三十八年)育英学園の創始者先哲加藤利吉先生が、東四番丁に私塾「英育舎」を開校したのが学園歴史の始まりである。この明治三十八年といえ、世界大國の一つロシアとの間に日露戦争が勃発し、日本の歴史史上からいっても大変な時で、旅順開戦、奉天開戦、日海軍々戦、日英同盟の拡充、ポーツマス条約の締結、韓協約調印等々内憂外患山積し、時の宰相桂太郎であった。そんな時代にありながら弱冠二十三才で私塾の開校を思いついた利吉先生に正に会津魂の真骨頂を見た気がするのであり、実に敬意の念を禁じ得ないのである。来る二〇〇五年(平成十七年)には伝統ある歴史

に輝き乍ら、百周年の記念すべき日を迎えることになり、学園の沿革に更なる華を添えることとなるのは、誠にめでたい限りというべきである。この百周年の歴史の重みは一朝にして成ったものではなく、実に利吉先生の苦闘と研鑽の足跡に外ならない。私が卒業したのは昭和十年(第九回生)で、今から六十二年である。ふと、一体この時代に日本の歴史上に何が起きていたのだろうかと思ふ。歴史年表を繰ってみると、総理大臣岡田啓介であったが、今日の日本を左右する大変な要因が介在していたのに驚かされる。即ち美濃部博士の「天皇機関説の問題化」日満経済協定、ノベル賞受賞の湯川博士の「中間子論導入の発表」、その上特筆されるべきものに「相沢事件」というものがあつた。

この事件は陸軍歩兵中佐佐相沢三郎が、陸軍軍務局長永田鉄山を同局長室で、抜刀の上殺害したものである。その理由は「一九三〇年頃から、軍部内の派閥抗争が激化し、皇道派の影響を受けた相沢が、対立する統制派を、重臣財閥などの支配層と結び、皇軍を私兵化

の意を表し、会員、及びご家族のご健康と繁栄を祈念申し上げ挨拶といたします。

するのやっつきとなつて見ると至った。たまたま、皇軍派の教育総監真崎甚三郎の更迭人事を聞き、その更迭派の永田鉄山の策謀と断定し、歩兵第四十一連隊(福山)付きから、台湾歩兵第一連隊に転行する途中に上京し勿論軍法会議に付され、皇道派の法定闘争の観を呈したが、その軍法会議も非公開となり、一九三六年相沢は死刑に処せられた。時に相沢四十五歳であった。これら二、三事件へと発展して行くのである。この人は行かぬ身で、仙台陸軍地方幼年学校から陸軍士官学校に進んだ優秀な人材であった。

更に二、三事件は満州事変、日支事変、ひいては大東亜戦争と変転して行くのである。

さて来る二〇〇五年は母校創立百周年という、誠に輝かしく希望の年でありたいと願うところで、百周年の大計を樹てるところが、極端にない方かも知れないが明日はどうなるか判らないような不安要素を孕んでいける今日世相は寒心にたえないけれども、世紀は禍を転じて福とするような、指導者の出現も期待されるが、もしもしたる無知のねだりなのかとも知れない。

そんな意味合いからしても利吉先生の功績は青史に残る遺業といわざるを得ない。賢者は歴史に学ぶの箴言(しんげん)通り歴史の重みを大事にしたいものだ。

同窓諸兄の御健勝を祈つて止みませぬ。

# スウェーデン留学で 学んだこと

大正大学文学部四年 鈴木 久美子 (平6卒)

私が仙台育英学園高等学校を卒業してから、早いもので三年半が過ぎようとしています。

現在は、大正大学文学部日本語、日本文学科に在籍中の四年生です。この度、多賀城校舎の英進コースにおいて、国語科の教育実習の場を与えて頂いた事に心より深く感謝しております。そして、この実習においても生かされた事が、私が育英在籍中に経験させて頂いたスウェーデン留学でもあるのだと、心から思うのです。

その事の発端は高校一年の五月に、女子卓球部でスウェーデン、チョッピング市に卓球クラブを通じての交換交流で、遠征に行った事だったので、現在、女子卓球部監督でおられます、大岡蔵先生が以前スウェーデンでの世界選手権女子監督をされた時から、この交流はありました。しかし、仙台育英女子卓球部としては初めての交流だったので、日本の裏側に位置する国へ足を踏み入れるといった機会に恵まれ、大きな興味と関心を抱きました。さらに、大きな衝撃も与えられました。

男子卓球は世界でトップに入るといふ事においても、又スウェーデン語の語学習得といった上でも、非常に私の好奇心をかき立てる材料の揃った国でもあったのです。

そこで私は再び留学することを両親、大岡先生、そして、女子卓球部に力を注いで頂いている、加藤雄彦校長先生の理解を得て、ウルビー高校との交換留学生第一号として二年の九月から十一月、北欧の地で生活しました。チョッピング市は二万人程の小きな町で、人柄も良く、生活するにとても心地が良い土地でもありました。そして卓球、勉強と積極的に励んで徐々に徐々に力を発揮していくことが出来ました。

その為に、卓球では国際大会にまで出場することが度々ありました。その中でもスロバキアで開催されたスロバキアオープンには、私にとって最大の事件が起きた大会でもあったのです。

それは二年に当たる五月二十九日でした。私はスウェーデンのジュニアナショナルチーム選手五人と監督、そして私の七人、ヨーテボリからの寝台列車の移動の際に起きた。朝四時頃、ドイツとチェコの国境付近で、深く眠っていた私は車掌に起こされました。それも、ビザがないという理由で。私は何が何だか理解できず、次の駅で降りろ！と怒鳴られ、その声に気付いた監督は私のもとに駆け付けました。そしてビザを入手する為

にベルリンへ戻ることを説明し、私は一人でベルリンへ戻ることを決意しました。次の駅で降り、反対側のベルリン行きに飛び乗り、私はあまりにも心細くて泣き続けるばかりでした。お金も手元には少しかかり、ドイツは初めてとあって、不安は募る一方でした。しかし、泣いてばかりはいられない、と心を新たにしました。その後、日本大使館、チェコ大使館と渡り、西目も暮れかけた頃、ビザを入手出来ず、途方に暮れていた私を一人のベトナム人のおじさんが助けってくれたのです。話を聞くと、その方もスロバキアの首都プラチスラバまで行くというのです。そして私は彼の難民アパートに数人の人達と一緒に一晩を過ごし、次の朝ビザを手に入れました。あまで再出発しました。あまりにも私の行動が急だったので、駅で日本の父へ電話で無事を知らせ、寝台列車に乗り込みました。座席へと離れ離れとなり、目的地へと私の心は急ぐ

# 仙台育英の魅力

東北大学 工学部 土木工学科四年 加藤 聖 (平6卒)



私が仙台育英学園を卒業してからもう三年以上の月日が経過している訳ですが、今あらためて高校生活をふり返って三年間得た多くのものから二、三のことからつけて記してみたいと思います。

私は宮城県北部の鳴子町という田舎の町から出てきて仙台育英の志をもち、はじめは特別進学コースという進学の所に入学してしまっ、たな、という思い、みんな勉強が出来るだけのつまらない奴(失礼な言葉ではないかと)

私が仙台育英学園を卒業してからもう三年以上の月日が経過している訳ですが、今あらためて高校生活をふり返って三年間得た多くのものから二、三のことからつけて記してみたいと思います。

中学までの限られたせい、より広い多様な人間関係を築けることは自分自身の視野を広げ、考えを柔軟にするとても良い機会だと思っております。もちろん高校を卒業した後はさらに様々な考えをもった人々とつき合っていく訳ですがその重要な準備訓練の時間を与えてくれたのが仙台育英であったと思います。社会というものは人と人の良好な関係から築かれていくものであり相手の考えを尊重し、自分の意見も受け入れてもらう場という単純でも最も難しいこの事を理解し国際交流や身近なあいさつなど基本的な教育を行っている育英。その教えを忘れず実践し、他人を思いやる人間を自分も目指していきたいと思っております。

もう一つ育英で学んだ大事なことは、自らの頭で十分納得がいくまで考え、そして実行するということだと思っております。

人間は知らず知らずのうちに特に年齢を重ね、生活のリズムが乱れていくにつれ、考えると



秀光中学校 卓球部と共に 姉妹校(ウルビ高) 訪問 五月

# 自分を信じる!!

東北福祉大学 社会福祉学部 横山 誠 (平8卒)



私は、仙台育英学園に入学し卒業まで多くのことを学びました。高校に入るまで平凡に過ごしていたのですが入学してから、ゴルフ部に入り何事にも目標を持つてやるように努めました。そうすれば、自分自身やる気が出てくるのです。もし失敗したとしてもその失敗が次に生きます。また失敗したとしてもそれを克服することによって人間の大きく成長できる

そして、三年間で他では学べないようなことを学んだことは、限界というものは自分で作ってしまうものだという事です。どんなに辛くても苦しくても、根気がなくすぐに諦めたら何もできません。困難なことを乗り越えれば、必ず良い結果が生じます。

結果は限界をつくる原因になります。たとえ自分ができないと思っても努力すれば必ずできるようになるのです。諦めたらその人は最後であり、人間は絶対に伸びません。下手でも能力のある人の何倍もの努力をすればその人を追い越すことができます。そして、自分を信じてやること、自分自身を信じてやること、この二つが大切です。この二つが大切です。この二つが大切です。この二つが大切です。

# 母校へのセールス

勝山企業株式会社勤務 木皿 広明 (昭55卒)



仙台育英学園を卒業し、早いもので十七年の年月が過ぎ現在は、青葉区上杉にある勝山企業株式会社に勤務しています。

学生時代とは違った形で母校に関わる事の多い仕事が出来るといふ事で改めて勉強させて頂いているような感じがいたします。

卒業後に勝山企業株式会社に入社し各部門の中のボウリング部に在籍し公認のボウリングのインストラクター他ボウリングポールのドリルインの資格を取得するのと同時に我が母校で体育の授業総合講座にてご利用頂いた際指導させて頂きました。又現在は本社営業部勤務となり昨年より営業活動を行っております。

私のテリトリーの中に学校関係が含まれておりまして、母校には当時私の担任の現生徒部長大場先生を訪ね他の先生方にも定期的な訪問させて頂いております。又校長先生には先日自社製品を学校で取り入れて頂くことも各先生方には年間何度もご利用頂きボウリング場・スケート場を含めたいへんお世話頂いております。今後定期的な訪問させて頂きまして今以上に多く利用して頂けるよう私自身も努力したいと思います。

最後に、卒業してからも定期的に訪問させて頂いております。又校長先生には先日自社製品を学校で取り入れて頂くことも各先生方には年間何度もご利用頂きボウリング場・スケート場を含めたいへんお世話頂いております。今後定期的な訪問させて頂きまして今以上に多く利用して頂けるよう私自身も努力したいと思います。

### 漁業新時代

（柳丸要漁業）

社長 佐藤 吉 男（昭30卒）



最近の経済動向を見ますと、景気は緩やかな回復基調にあると言われ、漁業流通体制の変化等による水揚げ高への影響、大型店の進出等による価格競争の激化など、中小企業を取り巻く環境は依然として厳しい状況が続いております。しかし、このような時

こそ中小企業ならではの柔軟性と機動性を十分に発揮し、経営の革新、合理化をはじめ、新技術開発、新分野進出など新たな活路を切り拓き、創造的で活力に満ちた産業振興に一層努力して行かねばなりません。

やがて到来する新世紀のさまざまな国際社会に即応しなければならぬ日本の立場と役割は、極めて重要性を持つ事になるでしょう。

私も商売柄何となく日ソ漁業交渉で訪ソし、今日の日本漁業の実態を考察する中で、絶えず漁

業資源の確保と国民への安定した漁業供給を維持する事が、漁業経営の再建につながる唯一の道であると信じております。

新たな時代の要請に応えるため、自由な経済活動と消費者利益の拡大を目指す諸施策を優先させて行かねばなりません。

又新海洋時代を迎え、水産環境もさらに様変わりが予想されますが、国際貿易のルールの中で、国内産品を競争力のある商品に育て上げ、水産振興の実現に向けて努力して行かねばなりません。

我々日本人は、尊い文化と歴史の中で、専ら体験と困難な時代からの脱却を図り、全世界に正義と秩序と永遠の平和を念願し、文化国家の建設に努力してまいりました。

最近、新聞紙上を見る

### 価値ある人生を過ごす

昭和三十五年卒同期会

会長 下山 三千夫（昭35卒）

今年二月二十二日(宮城第一ホテルで、昭和三十五年卒第五同期会を開催しました。仙台育英高を巣立って三十七年一人一人が歩んできた道は本当にさまざま、そうした話話を聞くことが出来る大変貴重な一時間の宴でありました。

当会不変のテーマ「友人に利益を与えよ」を掲げて、地元はもとより遠くは千葉、東京からかけつけた人、犬に足をかまわれて急に欠席する者や、幹事は四苦八苦の思いをしながらスタートした。

来賓として母校二年先輩の宮本昇先生(同窓会事務局長)を迎えて母校の成り立ち、近況、同窓

会活動等を拝聴しながら遠い学生時代のことを思い出し、うなずき「昔なつかしい顔」に変わりました。

学校の飛躍・発展はよくわかるが、同窓会の方は「一己己のいかに」との声が大でした。

この紙面を拝借して一言、他の学年の方々もぜひクラス会を開くことを望みます。それが同窓会の発展につながるものと信じております。

三人寄れば文殊の知恵と申しますが、人は物・金を運ぶもので集まり、それなりのプラスが生まれるものであります。今更集ってどうする、など年寄りくさいことを言

### 育英の思い出

仙台市太白区 金昌寺 住職 内田 得栄（昭44卒）



先日しばらくぶりで緑不肖の息子が育英に今年入学したが、我が学舎の門を二十数年ぶりで訪ねたのでした。

「学校の様子は現代の高校にふさわしく整然としていても、さわやかな教育環境の場である」というのが第一印象でした。当時懐かし、自分の三年間を

度に入らば若者の犯罪、あるいは国家審事と言え公務員の不祥事とは、ただ怒りを越えたい悲しみと、不安にかられるのは、私だけではないはず。やがて来る少年時代には備える「心の教育」といって、環境の整備に、ねばり強く愛を持って取り組んで行かねばなりません。

愛と自由と勇氣を、相互に授受出来る社会実現に努力するのは、大人の責務です。

日本国民の持つ世界有数の先進国としての技術システム、環境意識のない国際活動を可能にするとし、若者のエネルギーと情熱で地球規模の経済社会の調和と発展に、大いに活躍できる人材育成を、我が母校、育英学園に御期待申し上げます。

「この生徒さんは大丈夫です」と助言をしてくださるおばさまの顔や育英を取り巻く地域でお世話になった皆様のことが一瞬の内に脳裏をかすめました。

「忘れかけていた記憶」を思い出した。七十年安保で学生運動最盛期やオイルショックという激動と変革の時代に高校や大学生を過ごしたのも私たちが現代に投げかけられた試練と受け止めて、それを「糧」として現在に至っております。

今や育英は文武両道を含め、歴代の校長先生である利吉先生から昭先生まで、正にこの三者が一人欠けず現在の育英の存続はあり得ないと思ふ程の充実した学校となり、全国的にも有望視されております。

みなみな指導力と先生と生徒が学園「丸」となるの取り組みによるものです。

仙台育英がますます発展し、素晴らしい業績をますますあげていくことを確信しております。

う人がいますが、気にせず開催実現を期待いたします。

話は横路にそれましたが、各テーブルの話題は、経済情勢、景気のことや、相も変わらずスケベ話を持ち出す者や、まじめに教育問題を語る人で熱気にあふれていました。

事業主の話話をまよめると、これから採用する生徒については、ユニークで個性の持った生徒がほしいとの結論で、宴の半ばで今会五回目

で初めて出席した加藤善男君(福島県警視 自己紹介の中で盛大な集りは意義深いもので感謝の意、次回も参加したいと、一方で悲しい話になりましたが、佐々木仁吾君(タイ人販売禁止に肝臓ガンの告知を受け、たこと知りたが、皆がびくびくした)が勇気あ



質の高い日々を重ね、あせらず気楽に何事も一歩前へと誓い、母校・同窓会に貢献することを約し、制服姿を思い出しながら校歌を歌い来年の再会を約束して散会した。

### 母校を訪問して

東京書籍(株)勤務 尾形 寿一（昭31卒）



宮城野校舎の玄関の前に創立者加藤利吉先生の銅像と顕彰碑があります。

加藤 昭校長先生の筆によるものです。建学の精神である「至誠一貫実剛健」「自治進取」が掲げられていて、現在までその実践が脈々と引き継がれています。

私が仙台育英高等学校普通科を卒業したのは昭和三十一年度です。当時のいろいろのことを思い

出されますが、特に加藤利吉先生の面影が偲ばれ懐かしさを感じました。創立者への敬意を表する次第です。

私も三十六年間東京書籍株式会社に勤め、今でも現役に活動しています。

教科書会社に勤めている関係で、たびたび母校を訪問して、教科書、学習教材等の宣伝をしていへんとお世話になっております。特に仙台育英同窓の先生方にはいろいろご教示をいただいております。

この機会に現在の仙台育英を紹介いたします。昭和三十一年度当時は

「この生徒さんは大丈夫です」と助言をしてくださるおばさまの顔や育英を取り巻く地域でお世話になった皆様のことが一瞬の内に脳裏をかすめました。

「忘れかけていた記憶」を思い出した。七十年安保で学生運動最盛期やオイルショックという激動と変革の時代に高校や大学生を過ごしたのも私たちが現代に投げかけられた試練と受け止めて、それを「糧」として現在に至っております。

今や育英は文武両道を含め、歴代の校長先生である利吉先生から昭先生まで、正にこの三者が一人欠けず現在の育英の存続はあり得ないと思ふ程の充実した学校となり、全国的にも有望視されております。

みなみな指導力と先生と生徒が学園「丸」となるの取り組みによるものです。

仙台育英がますます発展し、素晴らしい業績をますますあげていくことを確信しております。

### 総会(全体会)と懇親会のお知らせ

恒例により下記の通り総会(全体会)・懇親会を開催します。

母校より校長先生をはじめ恩師をお招きし、楽しい会にしたいと思います。

会員皆様の参加をお待ちしております。

平成9年8月30日(土)  
 時 5,000円(当日持参)  
 会 場所 パレスへいあん(午後5時より)  
 電 022-265-5111



育英萬歳

創育会会長 鈴木正志(昭31卒)



同窓生各位には益々御壮健にて御活躍のこととお喜び申し上げます。

我が母校、仙台育英学園においては、昨年七月加藤昭校長が学園長に御就任なされ、加藤雄彦常務校長が秀光中学校高等学校の校長に御就任なされ、二十一世紀の母校創立百周年の記念すべき年を目前にして、より盤石の体制が確立され、

母校益々の発展と新校長先生の御活躍を心より御祈念申し上げます。さて、前号にてお知らせしました剣道部OB会の創育会が昨年、創立四〇周年を迎え、記念事業の一環として、仙台中学校選抜剣道大会を創設し第一回大会を昨年七月七日(母校体育館)において開催いたしました。

の結果、栄えある第一回大会の優勝校は、男子が東華中学校、女子は幸町中学校が優勝し表彰式において、優勝旗、優勝杯がそれぞれ授与され、最後に審判長の遠藤卓先生より講評があつて、記念大会も無事終了しました。

この記念大会が盛大に且つ、無事に終了することが出来たのも、母校、仙台育英学園並びに同窓会、そして関係各位の御支援の賜と感謝しております。

大会当日の開会式には、加藤昭校長先生(代理)、小林教頭先生、小坂信雄(同窓会会長)、加藤武司(仙台中体連剣道部部長)の各氏より祝辞をいただき感激致しました。創立四〇周年の記念大会というにもあり、未だ私ではあります。不肖私で日本舞踊で剣舞「白虎隊」を披露させていただきました。選手の子供達も普段、見る機会がなく、めずらしさあつて熱心に見てくれていたようで、踊り終わったとき、あちらこちらで子供達の笑顔があらはつていました。

東北大学 育英会支部の近況

白鳥 多嘉夫(昭32商卒)



東北大学育英会支部は、昭和四十年代には約一〇名の会員がおりまして、隆盛を誇つておりました。

私が、東北大学に就職し、先輩の紹介で育英会支部に入会した当時、ライオン先生こと加藤利吉先生の建学の精神による薫陶宜しきを得て、育英精神を受け継ぎ人間味あふれた、先輩が多数おりました。

平成二年十一月四日、待望の仙台育英学園同窓会岩沼支部の発足を見ることが出来ました。当日ご多用の所、小坂同窓会会長、三浦副会長、大江田副会長、今野事務局長各氏のご出席をいただき、初代岩沼支部長に高橋裕夫(昭和十四年卒)鈴木副会長(同期)西氏を選出、参加者最年長役員、平成七年故人となられた昭和二十一年卒、大江

岩沼支部近況報告

岩沼支部副支部長 大友 達夫(昭30卒)

巻き起こして欲しいと期待しております。母校の先を見た教育方針により、各方面に有能な学生を送り出し目覚ましく発展していることは卒業生にとっておおいに嬉しい限りです。私たちが在学していたころと比べて大学への進学率がよく、特に国立大学へ多数進学しており、東北大学にも毎年入学しているようです。東北大学の進学はおおいに結構ですが、育英会支部の発展のために公務員試験に合格した学生を是非東北大学に推薦下さるよう就職担当の先生をお願いいたします。最後に、母校の更なる発展と同窓生各位の益々のご活躍並びに在校生皆さんのご健闘を心からお祈りし、幼嫩な文章で大変恐縮ですがペンを置かせて頂きます。

昭和二十九年卒同期会 平成九年度例会 盛会裡に終る

北島 宏一(昭29卒)

昨年四月二十七日、卒業以来初めて全クラスに呼びかけ、還暦同期会が仙台東急ホテルにおいて開催された。三十名の同期生が集まり、感激の再会を果たした。

硬式野球部OB会 活動状況について 部長 高橋 泰典(昭42卒)



まだまだ会社の現役で自営業で頑張っているもの、業成し終えて年金で悠々自適のもの、第二の職場で生き甲斐を見出しているもの、さまざまではあるが、語り合うほどに、飲むほどに、なつかしさがつのるばかりであった。当時の野球部、サッカー部のスタープレイヤーも元気に参加してくれ、まさにタイムスリップの世界にひたることができた。母校のためにもこのエネルギーをより広く結果することの大切さを痛感した。前回、今回ともに、病

自宅 亘理郡山元町大平 字館山三二一 Tel Fax 三三三-三三三三 三三三-三三三三 三三三-三三三三 三三三-三三三三 三三三-三三三三 三三三-三三三三 三三三-三三三三 三三三-三三三三 三三三-三三三三 三三三-三三三三



こちらであります。一方、母校野球部は佐々木監督も二年目に入り着々と体制を整え、春の東北大会では昨年に引き続いて優勝、その勢いを駆って夏の県大会で堂々優勝を果たしました。これで四年連続「甲子園出場」となりますが、甲子園での活躍を心から念願しております。

